

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	川内君を想う <故 川内且昭君の遺稿及び追悼>
Author(s)	関谷, 孝英
Citation	広大言語 , 6 : 75 - 76
Issue Date	1966-12-10
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046254
Right	
Relation	



5. アリストテレスは、形而上学という言葉を使っていること。
- 6.ギリシャの神話の事。日本の神話の事。同系統のはなしは、いたるところにあるという事。炭焼太郎の事。蛇の事。荒らあらしさの事。四つめの犬の事。葬式方法の事、風葬、鳥葬、土葬、火葬、境界線の事。自由な行ききの事。ことばのまとめ方、掘り方の事。そういう性質の事。
- 7 大脳と間脳の事、小脳の事。電算機の事。素材がなければ、思考活動はじまらない事。
8. 人間は死なない、という事。個人が死ぬ、という事に焦点をあわせて、恐れをよびおこすという事。他人と一体になろうとする心がけだという事。精子と卵子との合一なくして、子供が生まれる事はないという事。母親の体内から出た日を、誕生日としているという慣習の普遍性と例外。
9. サルトルが、 Kommunismusへ近づくという事。デカルトの言、もちろん……印刷不明……の事ではない。論理の事、自明の事。ユークレデスの意図、アリストテレス——（カント）→ヘーゲル。
10. Y氏の、階級上昇と、教育の事。

以上が、彼がこの世に残した最後の原稿である。すべてが痛く胸を打つ。彼が私に与えた影響は、はかり知れないものである。彼の精神の多くを生かしてゆくことが、せめても。故川内君の霊に対する報いであるかもしれないと思っている。故、川内且昭君の霊の、安らかならんことを祈りながら、筆を置く。

川内君を想う

関谷孝英

僕は、川内君の死に、責任を感じなければならぬと思う。僕に“優しい、思いやりの心”があったなら、川内君は、死なずにすんだかもしれない。

十月十三日、昼まえ、長崎市花園町で、小型トラックの運転手A(27)が、車をバックさせたとき、車の後ろに、しゃがんで泣いていた右田久美子ちゃん(四つ)をひき殺した。朝日新聞十四日付、社会面(西部本社)には、「それにしても、残念なのは、事故直前、トラックの後ろに、幼いきょうだいが、しゃがみ込むのを、見ていた人が、何人かいた事実である。このうち、

だれか一人でも、きょうだいに注意してやることが、できなかったのか」と書いている。

Kは、当然、後方を確認し、バックミラーを正しい方向へセットしておくべきだった。しかし、Kは、メシを食べるため、重労働の牛乳販売店員として、機械のように、働く必要から、それを怠った。久美子ちゃんは、ナイーブさゆえに、弟といっしょに、どこでも、おかまいなく、天子みたく、羽ばたこうとする。通行人は、“優しい心”の持主でなく、しかも、生きることには追われている。「車の後ろで、ジャリが遊んでらあ」と、危険を感じないし、感じようとしなかったのだらう。

久美子ちゃんは、川内君、そして、K・車は、いまの社会機構、通行人は、僕——と僕は思う。社会機構は、川内君を、ひき殺した。

<僕は、社会機構を、絶対許してはいない>。自分自身も許されない。“優しい、おもいやり心”は、本質的ではないが、個人を助け、社会を楽しくする。

「川内君は、死なずにすんだのに」と、僕は思う。ナメクジのように、クニャクニャした僕でも“心”を持った個人に、すこしでも近づこうと、努力すれば、川内君は、僕の“罪”を許してくれるはずだ。

川内さん追悼

西村和子

川内さん、あなたの死が私にはどうしても信じられません。死は人間誰れしも避けることのできない訪れですが、若い私たちにとっては、それは、ずっとずっと先のこととっていました。ですから本当にあなたの死が信じられないのです。

ときどき、ふと錯覚を覚えることがあります。今でも、あの講義の一番後方の一番高い席で、例の細長いカードの束を手にした川内さん、あなたが黙々と資料を集めていらっしやるのではなにかしらと……

生粋の広島子である私は、方言を研究していらしたあなたには、恰好の資料源ではなかったのでしょうか。私たちの話す広島弁をカードに一枚一枚、丁寧に書き取っておられた川内さん、そのあなたが亡くなられたただなんてとても信じることはできません……折角の方言の研究も途中で終わってしまって、さぞご無念なことでしょう。私の広島弁も、学問的に考察される絶好の機会を永久に失ってしまったのですね。みっともない私の広島言葉もあなたのお力で、何かもっと重